

不思議な事も
あるもんだ！



不思議な事も

あるんだ！

前記。と、解説。

はじめまして、もしくはこんには。アメヤキ1カです。

今回は『さくらビットマップ』の相葉宗次郎(♀)通称宗次郎子本ということなんですが、ちょっとあの、さくらビットマップ自体は人気作品なんですけど、キャラ選択がニッチにモほどがあるぜ！　ってかんじなのですが、なんかもうほんとに好きで仕方ないので思わず本を出してしまった次第です。

あの、たぶんこれ解説しないと読んで頂いてもほんととまったくわけわからないと思うので、どうか少々お付き合いください。

ええと、さくらビットマップの予約特典に、「不思議な事もあるもんだ！親友キャラ(男)性転換/パッチ」というものがついてきたのであよ。この/パッチっていうのが、主人公の親友キャラが女の子になっちゃうっていうやつで、立ち絵と声がちょうかわいい女の子になるんですけど、ほんとにそれだけなんです。特に攻略対象になるとかそういうこともなく。「なんだよ攻略できちゃーのかよ意味ねーじゃん」って思うかもなんですけど、この宗次郎子の魅力ってのはそういうことじゃないんですよ。相葉宗次郎っていうキャラは、先も書いたように主人公の親友キャラなのですが、もうとにかくおっぱい大好きで、セリフの8割「おっぱい」言ってるようなアホの子なんですけど、もちろん周囲にもあげー虐げられてるんですよ。で、/パッチ当てて女の子にしても、言動も周囲からの扱いもまったく一緒なんですよ。だからまあ、要するに/パッチっていうかスキんなんですよね。キャラ事態はまったく変わらず、見た目と声だけが変わるっていう。超絶美少女なのに「おっぱい」言いまくって周りに虐げられる……どうですか萌えませんか。ちょうシュールです。シュール萌え。新しいジャンルです。詳しくはオフィシャルサイトをご覧くださいということ！　→<http://www.hook-net.jp/sakura/>

……と、長々とした説明にお付き合いくださいましてありがとうございました。

今回の漫画は、基本どれも宗次郎子の存在に疑問を持ってないけど主人公だけ宗次郎子が女になってることをわかってしまったみたいな設定で描いてます。

それでは、しばしの間お付き合いくださいませ。

寝て起きて
いつも通り
学園に来たら

大変なことに
なっていた

宗次郎が……
宗次郎が女子に……!

な……
何を言ってるのか
わからねーと思うがry

おはようだよ
宗次郎くん♪

いや待て
小春の頭のネジが
いつも以上に
外れて宗次郎って
言ってるだけかも……

だって似ても
似つかないじゃないか!

な……
なんだ?

おかしいと
思ってるのは
俺だけなのか?



本物だ——！



よう史隆！
今日こそ
おっぱい探しに
付き合えよな！



しかもなんだ
落ち着いて見たら
すげー美少女じゃ
ねーか……

めっちゃめっちゃ
好みの……



いやいやいや待て
見た目に
だまされるな！
こいつはあの
おっぱいバカだぞ！
落ち着け俺！



あそうだ
史隆

な……なんだよ

今日お前ん家
行ってもいいか？

はあ!?

なんだよ
俺はただ前に貸した
あのおっぱいを
回収しようかと……

なんだよー
せつかく俺の秘蔵の
おっぱい……

おっぱいおっぱい
言うな!

その見た目で!

あああ……

ううんそつだよな
宗次郎は宗次郎だ……
エロ本を回収しに
来るだけだ……
気にするな俺!

……いいぜ別に
押し付けられた
だけだし
さっさと持って
帰れよな

……?
どうしたのさ
桧山くん
相葉っちにいまさら
そんなこと
ツッコむなんて

……やっぱり
おかしいと
思ってるのは
俺だけか……



おー史隆の家
久しぶりだな！

そそっだったっけ？

やべえ
小春と璃子以外の
女子が部屋に……



あ……ああ
これ

おおー！
久しぶりの俺の
おっばいちゃん！
おい史隆これ
ちゃんと見たか？

えあああ



ちよ……なんか
いい匂いが……

そ宗次郎の
くせに！



いやいやいや！
だからこいつは
宗次郎なんだよ！

おい史隆早く
おっばい返せよ

……なんだよ
お前今日おかしいぞ
なんかあったのか？

やべえ
本気でかわいいぞ
こいつ……

そんなに近づくな
上目遣いで見るな
理性が……！

やな

やな

ぶっ

ん

我慢できるかあああ！

ふ史隆っ!?

さ

っ



お前が
悪いんだからな！
そんな
かわいいナリに
なってるからっ！

ちよ……っ お前
ホモだったのかよ！

断じて違っっ！

……っ



んんっ……



やあっ
ぐりぐり
すんなよお



なんだよ
お前も結局おっぱい
好きなんじゃないか

おっぱい嫌いな
男子なんて
いねーよ！

お前がおっぱい
言いすぎなだけだ！



あ……っ



……っ!!

ふんっ



すっげー
ぐしょぐしょ
感じてたんだな



そっ
そっ
そういうお前は
どうなんだよっ!



そんな
触られちまったら
我慢できねーよ

……入れちまうぞ

んあっ
ちよ……っ！



ああっ

ふああっ！



痛いかな？

い……痛くは
ないけど
変な感じ……



ひあっ!?

動かすぞ……っ



やそんな
激しく……っ

やだやだあっ!



こんな感覚
知らない!
おかしいよっ!

気持ちいい!
気持ち……いいっ!



やだあつ
奥のほう
すごいよおっ!

すっげえ
宗次郎の中
ぐちゃぐちゃだ……!



やらあつ
もほんとに
こんなの続いたら
おかしくなるよおっ!
頭壊れちゃうっ!!



だめだ俺
もう出ちまう……っ
中……出すからな!

えあ中っ!?

俺ももう
いっしょに
イキそう……っ！

ふああああああっ！！

史隆の精液………すげえ
流れ込んで……っ

んあああああんっ！！



え？

他に
汚れちまった場所
あるだろ

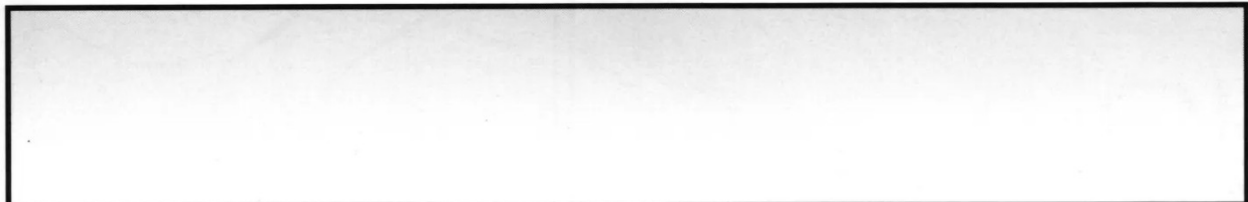
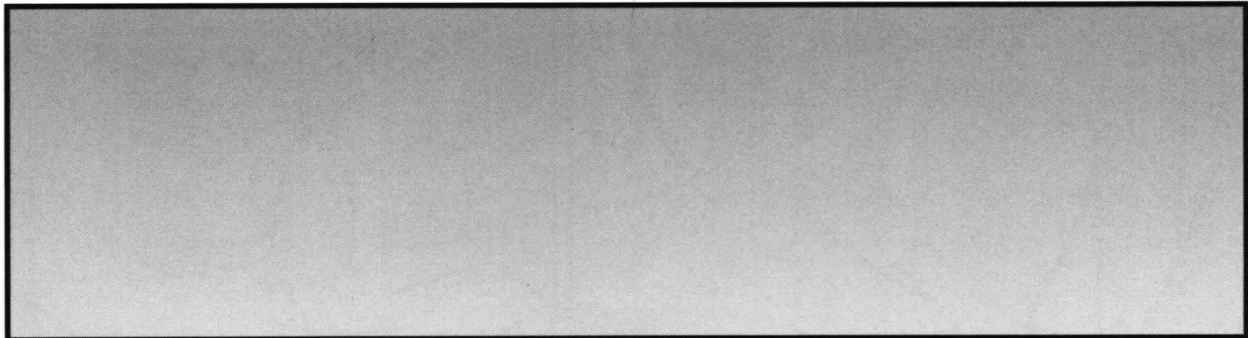
うわー……
畳すげえ
汚しちまったな



っ!?

ちゃんと
キレイに
してやるよ

ん？





夢じゃ……
ない……!?

!?



宗次郎……ほんとに
かわいかったな……
俺本気で
こいつのこと……

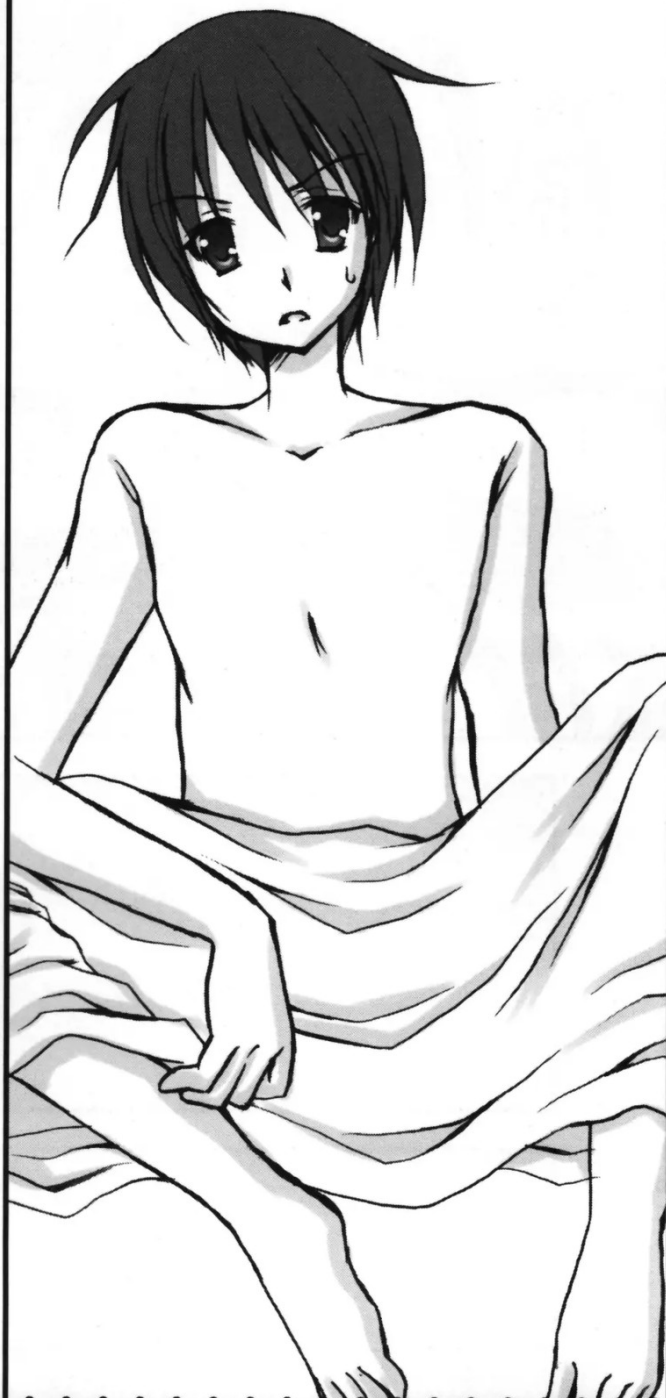
なあ
宗次郎……



ん……

!?

……なんだ
あれは
夢だったのか……?



ぎゃああああああ！

ちよっとおにい！
朝からうるさ……って
相葉さん!?

ななんで
ふたりとも裸……

いやあああ——!!

ちよ……璃子!
違うんだあああああ!
話を聞いてくれえええ!

「正直者は恋をするえくすとら!」

書いた人…青霧島

あらすじ

さあ、みんなの友だち相葉宗次郎。

おっぱい大好きなヤツがある日、なにがどうしてそうなったのか、かわゆい女の子になっちゃってしまう。

見た目はラブリーな女の子だけど、中身は変わらなず宗次郎。おっぱい大好き宗次郎。クラスのみんなもすぐに慣れ、まあ、宗次郎は「性別…相葉宗次郎」だから仕方ない、との結論。

しかし、彼(彼女?)の親友・史隆だけが、いつまでもそんな宗次郎に馴染めないでいた。

宗次郎のコトが気にはなるけど、うまくそれを表せず、小学生よろしく無視したり、ついキツくあたっちゃってしまう。宗次郎はそんな扱いに終始シヨボン。

そんな折、小春の提案でお花見をすることに。場所は町外れの丘の上。綺麗な桜が見ごろです。

宗次郎と気まぐれままの史隆が、小春たちの言い分けどおりに場所取りをしていると、宗次郎がひとり、弁当を持って現れた。

みんなはおもむろに手紙を差し出す宗次郎。

「ふみちゃんへ。宗次郎くんと仲直りするまで、ふみちゃんは仲間はずれなんだよ!」

宗次郎は今までどおり仲良くしたいけどなんだか恥ずかしい。史隆も突然かわいくなっちゃった親友に戸惑い……ギクシヤク……

とりあえず弁当食べようか。

小春弁当と一緒に、宗次郎が作って持ってきたのはなんと巨大なおっぱいプリン。二個入り!

ばかす!なんでこんなものを!

だって一回作ってみたかったんだもん!おっぱいプリン。それに、史隆甘いもの好きじゃん!!!

ためしに一口食べてみる。うん、味は普通にうまい。

ん?なんか独特の風味が……もしかしてお酒入って……

と、そこで宗次郎のあーんして攻撃。四つん這いでこっちに来るな!谷間が……ッそしてふとももが……ッ

なんだよ、食べられないのかよ。

ちよつと顔が赤い。落ち着けてばか。

じゃあいいよ!自分で食べるから!

食べるよ、食べる!いいよ、無理しなくて!

バタバタわー

気がつくとも宗次郎を押し倒してしまっている史隆。

プリンのかけらが宗次郎の胸元に落っこちていた。

そんなベタな展開からの……本編をどうぞ♪

プリンが落っこちていたのは、宗次郎の胸元のTシャツから露出したあたりだった。幸いというかなんというか、服は汚れてないみたい。

「……どけよ」

怒った顔してるのに、目がうるうるしてるせいかわつぺたが真っ赤なせいか、怒ってるように見えない。

やばい、絶対酒入ってただろ、これ。

「プリン、食べていい?」

荒い息にあわせて上下する胸。ドキドキしながら言ったセリフに、宗次郎は最初驚いて、それからかすかに頷いた。

「んっ」

スプーンひと掬い分のプリン。肌の熱が移って、ぬるくなっている。

「ちゅ……」

「や……っ史隆、ヘンな舐め方、するなよっ」

そう言われても、コレ、甘くてやめられない……。

「あつ、そこちがつ……」

薄く汗ばんだ肌の、ふくらみかけたところを軽く吸ってみる。それに反応してびくんと震える身体と驚いた声。

「あつ、はあ……」

吸ったところが赤いアザになる。ふと見ると、宗次郎は泣いていた。

「ご、ごめん」

馬乗りになったキケンな姿勢にも今さら気づいて、あわててどうとすると、華奢な手がおれの服をつかんだ。

「やめるなよ……」

震えてる手と、こっちを見てすがってくるような目。ためらったのはたぶん、ほんの一瞬だと思う。

おれはもう一度宗次郎の顔の横に手をついて、お互いの鼻先が触れるくらいまで接近した。

「……いいの?」

自分の服の袖で、濡れた目尻をぬぐってやる。宗次郎は、さっきよりもはつきりと、おれの目を見つめ返したまま頷く。

「途中で止まらないからな」

最後の返事は聞かなかったし見なかった。宗次郎の湿ってちよつとだけ開いた唇に吸い寄せられて、待つてられなかったから。

「ふ、ん……んちゅ」

宗次郎の唇は、さつき食べたプリンの甘ったるい味がそのまみました。

やわらかいそれを自分の唇ではさむ。角度を変えて。それからついでみたいな気持ちで舌を差し込むと、驚いた手がおれの肩をつかんで、でもそのまま迎え入れてくれた。

「んんっ、ふあ、ふみ……っん」

宗次郎の両脚が、のしかかっているおれをはさんだ。苦しいのかな？おれは閉じていた目を開けて様子を窺う。宗次郎もギョツと目を閉じていた。

「あつ、やんっ……待っ」

様子を探りながら、Tシャツをまくりあげた。白い肌は手のひらで触れると、やわらかくてすべすべしている。

「あんっ、史隆、くすぐりたい……」

なるほど、たしかにちゃんとブラジャーしている。でも今は正直、邪魔なだけだ。遠慮なくカップの部分を手をずらしあげると、プルンツと張りのあるおっぱいが現れた。

「史隆あ……」

あんまり切ない声を出さないでほしい。さつきからこの声がおれの股間を直撃しまくっている。

チラッと見ると、不安そうな宗次郎と目が合う。不安そうな、でもトロンとして気持ち良さそう。

「ひやつ、いきなり……んあつ、あ」

おっぱいに触れると、くすぐりたいのをこらえたような声がこぼれる。やばい、すぐくやわらかい。マシ

ユマロとかって喻えどことじゃないぞ。

「ふみたっ……や、はん、ん……あ」

力を加減しながら揉むと、そのうち声音が変わってきた。くすぐりたいというより、なんというか、率直に言って気持ち良さそう……

「宗次郎、気持ちいい？」

「なんかっ……んん、あう……ん、おっぱいつて、見てるより、あつ、触られてるほうがずっと、気持ちいい……」

がはっ。

「ふ、史隆……」

思わず仰け反ったおれに、驚いた声を上げる宗次郎。

「な、なんでもない」

バカ、お前はもともと男のクセに！なんだそのウルトラC級にかわいいセリフはあああッ!!

「やんっ！あ、だめ、吸っちゃ、ああんっ」

我慢できず、おれはうつすらと色づいた乳首にむしやぶりつく。嬌声が上がって、宗次郎の腰がおれの下半身をはさんだままやらしく動く。

「んん……はあ、あつ、ふあ……」

際限なく声が上がるのが嬉しくて、強弱をつけて揉み、突起を舌で飴玉を転がすように舐める。……と、

「うおっ」

「史隆ばっかり、ズルイぞ」

いつの間にか宗次郎の脚がおれの股の間に入り込んでいて、おれのナニをつつついてきたのだ。

「俺もする」

うっかり腰が引けた隙に宗次郎はするりと身体を起

こし、おれのズボンを脱がしにかかる。

「ば、ばか！いいよ、そんな」

「はあ？こんなにしといて、いいわけないだろ。お、おれのおっぱい散々いじめたんだから、仕返しさせてもらうからな！」

そう言うのと、さつきとベルトをはずしてしまふ。強がりを言いつつ、されるがままのおれ。たしかに、とつくに息子は本気モードになっている。

「おお、……でかいな」

こらこら。しげしげと観察すんな。

「無理しないでいいぞ。き、きれいいじゃないんだから」

「むっ、見くびるなよな。史隆のだったら、そんなの全然気にならないよ」

言いながら、宗次郎はチュツと音を立てて亀頭にキスする。

「うわっ」

半開きの口から覗く舌が、そろそろとサオを舐める。裏筋を舐め上げて、くびれのあたりにまたキス。

「ちゅ……うん、んん」

生温かい舌と唇が別の生き物みたいにペニスの上を這う。そのたび、袋のほうに痺れるような快感が走る。

「あむっ」

「ちよっ……宗次郎っ……」

やにわに、宗次郎がおれのをパクツと咥えた。

「んむ……ん、んちゅ、じゅるっ」

鈴口を舌で転がされ、引こうとした腰が勝手に前に突き出てしまふ。すぼめた口の端からもれる濡れた音がやらしい。

「んちゅ……はっ、史隆の、ヘンな味……んう」

宗次郎は自分のしてる行為に、自分で興奮していく

みたいだ。うつとりした表情でそんなコトを呟いたかと思うと、今度はもつと深く啞えこむ。

「うつ……あ」

「ちゆる、んぐ……ん、んちゅ……」

唾を出しながら、ゆつくり上下する。熱い粘膜が絡みついてきて、背筋に電流でも走るみたいな気持ち良さだ。

「じゅっ……る、んふ、んん、うう、んむ……」

これやばい、このままじゃ簡単にイッちまう。

「ふあ」

おれは黙って、宗次郎の肩を押し返した。それが精一杯だった。ちゆるんつとナニが解放される。

「あ、史隆……？」

なすがままの宗次郎を、さつきと同じように仰向けに押し倒す。

「寒くない？」

上はさつきからずっとはだけたままだ。宗次郎は首を横に振る。おれは安心して、それからそつとその脚に手を伸ばす。

「あつ、やん」

ミニスカートから伸びたふとももを撫でた。ああ、やっぱりおっぱいとおんなじでやわらかい。それでもちもちっ……！

「あ、そこだめ……っ」

「……濡れてるじゃん」

下着を指でなぞると、宗次郎は恥ずかしそうに顔を背ける。おれとこうしてることで感じてくれてるのが、震えるくらい嬉しい。

熱く湿ってしまった下着を脱がせて、そこに直接触る。

「はう……ん、や、そこ、あつ、ああつ……」

ぬるぬるになったそこを割れ目に沿ってなぞる。すると、ひだとひだの間にぷくつと硬くなったところを見つけた。

「やつ、だめっ！ああ、つく……ああつ、あん……」

指の腹で押さえて、そつとこねる。

「ここ？気持ちいいの？」

さつきまでと明らかに違う派手な反応に、ようやくそこがクリトリスだと気づいた。

「ああつ、だめ、ほんとに、だめっ……もう、あ、ふあつ、んんっ！」

ビクンツと宗次郎の身体が今までないくらい大きく揺れた。

もしかして、イッちやったのかな？

「はあ……ん」

たしかめるように指を進める。中はトロトロにぬめっている。

「宗次郎……」

おれは自分のペニスに手を添えて、宗次郎のそこにあてがう。刺激に敏感になった身体が震えて、かすかに怯えたような濡れた目がこつちを見る。

「平気？」

顔を寄せて、目尻を今度は舌でぬぐってやる。セックスの時に女の子がこんな泣いちゃうものなのか、単にこいつが泣き虫なのか、おれにはわからない。

「史隆……きて……」

その言葉を、唇で受け取る。深くキスしたまま、宗次郎の中に入っていく。

「んうっ……ふ、あ、ああつ、うつく……」

「きつ……」

狭い入り口の先は同じように狭くて熱い。ペニスの先から溶けちまいそうだ。

宗次郎は眉間にしわを寄せて、痛みに耐えているみたいだ。おれがこれだけキツけりやあ、痛いよな……。

「んっ……あ、史隆……動いて、いいよ」

「大丈夫かよ」

小さく三回続けて頷く。もちろん大丈夫なわけないよな。でもたしかに、おれもそんなに我慢はできそうもない。

「じゃあ……痛かったら、言えよ？」

「うん……つく、ああ、んっ、ふあ……」

半分ほど挿入したまま、そこを擦るようにゆつくり動く。たつぷりの愛液でなんとか動くことができた。

「ふみ、たかあ……すこい、うごいてる……ふあ……」

宗次郎が熱に浮かされたように呟く。至近距離でそういうことを言われると……

「あうっ！あ、ああつ、ひあつ」

つい力が入っちゃうのだ。

「うあ、はあん、そんなに、したら……あんっ、おかしくなる、うん……」

次第に快感を追いかけた宗次郎の唇をふさぐ。腰を押しつけるように揺さぶりながら舌を絡めると、たまらないと言うように、細い腕がおれの背中に回された。

「あつ、奥イイ、ああつ、んっ、ああつ！」

抱き寄せられた形で密着すると、ほぐれてきた膣がうねるようにおれを飲み込んでいく。頭の中が白んで、ぶっ飛びそうだ。

「ひああつ！ふ、ふみたかあつ、もつと、んはあ、あああつ！」



いつの間にか、おれはほとんど全力で腰を振っていた。亀頭が奥の、目に見えない宗次郎の感じる部分を叩いている。そのたびに、白い喉がおれの前でそっくり返った。

「はあ、あつ、ああつ！あんつ、も、もう……っ」

「うあ……だめだ、イク……」

背骨の中を雷が走る。

「やああつ、んあ、ああつ、——っ!!」

「つく……」

心臓が強く脈打って、しがみついていた宗次郎の奥で、おれはそのまま射精してしまった。

……くたびれた。

「史隆、いつまでこうしてる気だよ」

「ずっと」

春の陽気の中で汗をかきまくり疲弊したおれは、宗次郎のふとももに頭を乗つけて寝転がっていた。

「いいけどさあ」

ぶーたれた声が降ってくる。でも、細い指がさつきからおれの頭をずっと撫でてくれるから、それに甘えるって決めてるのだ。

「正直者のあなたには……ね」

「なんか言った？」

「なんでもない」

自分の気持ちに素直になるコトに気づいて得をしたのは、果たしておれだけなのか。おれはほっぺたでその極上の触り心地を楽しみながら、宗次郎に向き直る。

「……なんだよ」

「その髪型、似合ってる。」

「……」

淡い紫のリボンも、さつき乱れたのを一生懸命直してた三つ編みとおさげも。

「かわいいよ」

「……ばか、おそいよ」

デコピンされてしまった。でも宗次郎が喜んでくれるのがわかる。

混じりつけなしの言葉は、まっすぐ口になると、案外照れたりしないんだ。おれは、自分が少し誇らしくなった。

「な、宗次郎、キスしようぜ」

「はっ!!」

なんという素っ頓狂な声。あれだけのコトをしたのに、まだ恥ずかしいのか、こいつ。かわいいじゃないか。

「お前がしたかったら、だけど」

腕立ての要領で上体を起こし、鼻先に迫る。宗次郎は意表を突かれた顔のまま、でも退かない。

「俺がしたかったら？」

「そうだよ」

おでこにおでこをぶつけてやる。すぐ赤くなる顔に、また血が昇ってる。

「じゃあ、……する」

ねだるような目が閉じて、まっげがおれのほっぺたをくすぐる。どっちからともなく、ゆつくりと唇が重なった。

おれたちの手は、ずっとながれたままだ。

「史隆、……すき」

「うん……おれもだよ」

離れないでいよう。それが、一番の正直な気持ち。

あとがきてきななにか：(´ω`)

どうも、青霧島です。はじめまして。

宗次郎と宗次郎子への溢れんばかりの愛情から生まれてしまった「正直者は恋をする」を読んでくださり、ありがとうございます。

今回、鮎屋。さんちのキリちゃんにゲストでお誘いを受けた時から、すでにおっぱいプリン存在は決まっていた。

宗次郎子の天然でぐいぐい押すんだけど、実際は奥手で照れ屋で弱ツンデレで感じやすいコというテンプレは、その前からすでに存在していました。

なんでしょう、このコ。かわゆい女の子になっても周りからの扱いは変わらず、本人のメンタリティも変化しないとか、面白すぎる。

そしてなぜか攻略対象じゃない!!なんでや!こいつを落としてこそそのエロゲではないのか!!?

という、いろんな思いがスパークして、脳みそが溶けたらしく、気がついたら2万字超えの大作になってしまいました\(^o^)/

おかしい……どうしてこうなった……

キリちゃんに相談しつつ、字数を減らしたりエピソードを削ったりと悪あがきを繰り返した結果、今回のようなハンパな形での掲載と相成りました。

キリちゃん、忙しいのに迷惑かけてごめんよ；

なんだけ意味不明な部分もいくつか残ってしまったと思うんですが、あらすじ部分の小説版を読みたい!という奇特な方がいらしたら、

「正直者は恋をする」<http://id37.fm-p.jp/272/aokirishima/>
までお越しください。

萌えキュン甘々宗次郎で、お待ちしております♪

それでは最後までお付き合いありがとうございました〜♪



後記。

ここまでお読み頂きましてありがとうございました！

正直、まともな本を出すのが一昨年の冬以来くらいでちょっとうわあ……って思ってます。

でもほんと、今回はものすごく真面目に取り組みたいと思ったのであよ！ だって宗次郎子かわいいから！ しかも真面目に二次創作少なすぎて絶望してたんですよマジで。こんなにかわいいのに、こんなにいい設定なのになぜ……。

この本を読まれて、さくらビートマップと宗次郎子に興味を持って頂いた方がいらしたらとてもうれしいです。

あの、宗次郎子のお話ばかりしてるんですけど、さくらビートマップ自体もとてもいいゲームなんですよ！ わたしわかし年に5〜6本くらいはエロゲーやるんですけど、去年のいちばんのヒットは断然さくらビートマップでした。とにかく全キャラかわいい、全キャラ萌える、萌えゲーのお手本のような作品です。よろしければ是非に。

そしてそして。今回ゲストで小説を書いてくれた青霧島嬢に多謝！ まじでゲスト引き受けてくれたときには嬉しすぎて吐血するかと思いました。宗次郎子が、宗次郎子が……！ ハハハが止まりません。おっぱいプリンまじ吹いたwww 青霧島嬢天才。おっぱいプリンとともに弱リンデ照れ屋っ子な甘ラブキコン宗次郎子たいへんおいしく頂きましたペロペロ。思わず挿絵も描いちゃったんだぜ！ もうマジどうしよう宗次郎子好きすぎて生きる希望がわいてくる。

……なんか前記後記あわせてキモくてすみません。よく友人にキモいって言われてます。病気なんであきらめて←

あ、えと、ちょっとだけインフォメーションさせてください！

この本が出ているハズのサンケイの一週間後、4/24に『魔法少女まどか☆マギカオンラインイベント もう何も恐くない』に参加が確定しています。

ほむらとまどかのいちゃらぶ「ちょっとリリカルな本をどうか」と思っております。

ご興味のある方はぜひ！ お願いします☆

それでは、またどこかで会えることを願っております！

不思議な事も
あるもんだ！

2011.04.17

飴屋。/アメヤキ1カ

web site→<http://candypop.sunnyday.jp/>

e-mail→candypop@yj.sunnyday.jp

twitter→http://twitter.com/ameya_kirica

mixi→http://mixi.jp/show_profile.pl?id=193427

pixiv→<http://www.pixiv.net/member.php?id=484663>

printed by 丸正インキ(有)様

Thanx so Much!!

Sakura Bitmap Fanbook * Ft. Sojiro Aiba (♀)
Ameyu. / AmeyuKirica 2011 Spring

